

第13回 多賀町立博物館

研究発表会

Taga Town Museum Research Meeting 2018-2019

講演要旨集



多賀町の食のジオラマ（あけぼの20周年まつり 2018.11.3-4）

多賀町立博物館（あけぼのパーク多賀）

〒522-0314 滋賀県犬上郡多賀町四手 976-2 E-Mail : museum@town.taga.lg.jp

TEL : 0749-48-2077 FAX : 0749-48-8055 <http://www.town.taga.lg.jp/akebono/museum/>

第 13 回多賀町立博物館研究発表会

2019.2.16

プログラム

講演 15 分、質疑応答 5 分

14 : 00 ~ 14 : 20

身近な自然の再発見「多賀の花の観察会」からわかったこと

中川信子（多賀植物観察の会）

14 : 20 ~ 14 : 40

森の保育～自然と共に暮らす～

小倉由香里（森のまんまるようちえん）

14 : 40 ~ 15 : 00

湖東地域の水辺における学生団体の取り組み～豊かな琵琶湖を目指して～

北野大輔・久岡知輝（滋賀県大生き物研究会）

休憩（10分）

15 : 10 ~ 15 : 30

多賀町星空調査 2018

高橋進（湖東理科学研究会）

15 : 30 ~ 15 : 50

姉川流域の縄文時代の古環境復元

龍見幸佑・北川凜翔・大前健人・渡邊達也・田付翔・村瀬友斗（米原高校地学部）

休憩（10分）

16 : 00 ~ 16 : 40

多賀道と御代参街道

門脇正人（愛荘町立歴史文化博物館）

16 : 40 ~ 17 : 00

史料から見た榎崎氏の実像

本田洋（多賀町立博物館）

身近な自然の再発見

「多賀の花の観察会」からわかったこと

多賀植物観察の会 中川信子

「多賀の花の観察会」は4月から11月の毎月第3木曜日に開催しています。
2005年6月16日から開始し、14年目になります。

2014年からは、多賀町内の集落を巡る多賀の花の観察会を開催し、町内の32字に行きました。その中で多賀町の各字に残るすばらしい自然を知ることができました。地元の人にとっては当たり前すぎて気がついていないことも多くもったいないと思います。少しでも多くの人にその大切さを伝えたいと思います。守るためには知ることから始まります。失ってしまった自然を取り戻すことは大変です。

私たちが育ってきた場所はどんなところなのかを知り、そこに昔からある樹木や草花にも興味をもつことは豊かな生き方につながることでしょう。観察会を開催した32の字を、犬上川や芹川流域の集落ごとに特徴や貴重な植物を紹介します。

A 芹川上流 山地性の植物・好石灰岩地植物

(トチノキ・ナベナ・ウマノスズクサ・サツキヒナノウスツボ等)

B 芹川中流 山地性由来の植物・在来種

(オドリコソウ・イヌノフグリ・シャク・カワラナデシコ等)

C 犬上川中流 人の手が入ることで守られている植物

(ツルボ・ヒガンバナ・ガガイモ・ツルニンジン・ヤブカンゾウ等)

D 犬上川上流 南谷 貴重な植物が残る

(ガンピ・オオバアサガラ・センブリ・モウセンゴケ・ホンゴウソウ等)

E 犬上川上流 北谷 山地性の植物

(ジャケツイバラ・ウリノキ・カシワバハグマ・ホオノキ等)

『森の保育～自然と共に暮らす～』

森のまんまるようちえん 小倉 由香里

1. 森のようちえんの概要

森のようちえんについて

森のまんまるようちえんについて

2. 自然のなかで育つ子どもたちと支える大人

森のまんまるようちえんの映像から

自然の中で

暮らしの中で

周りの大人達

3. なぜ今あらためて「自然の中で」「主体性を大事に」なのか

主体性を大切にすること

自然や暮らしを大切にすること

4. 子どもの育ちを支えるために

正しさよりもあたたかさを

自ら考え、行動できる子どもたちに

湖東地域の水辺における学生団体の取り組み～豊かな琵琶湖を目指して～

○北野大輔・久岡知輝（滋賀県大生き物研究会）

豊かな琵琶湖を取り戻すためには、生き物を育む琵琶湖周辺の環境を良くしていくこと、その取り組みを地域全体で継続していくことが必要である。滋賀県大生き物研究会は滋賀県立大学近江楽座学生団体のプロジェクトの一つで、琵琶湖の環境を少しでも良くしたいという思いを持つ生き物好きの学生が集まり、2011年から活動を行っている。本発表では、研究会の活動の3つの軸について紹介する。

(1) 琵琶湖内湖「神上沼」の外来魚駆除と在来魚調査

内湖とは、水路などで琵琶湖と直接つながっている小さな水域である。琵琶湖の周りに点在する内湖は、滋賀県の水生生物の多様性の維持に必要不可欠な環境である。例えば、在来魚が繁殖し、その稚魚が育つ場となるなど、内湖は生物にとって多面的な機能をもっている。しかし、現存する内湖の多くはその環境が悪化していると言われている。我々は、彦根市稲枝地区にある神上沼という内湖を在来生物にとってより良い環境にするため、在来魚に悪影響を与えるとされるオオクチバスやブルーギルなどの外来魚を駆除している。外来魚の捕獲には投網や刺し網、タモ網を使用し、繁殖前の大型個体だけでなく、孵化してすぐの稚魚も駆除している。また、同時に在来魚類の調査も実施しており、これまでの調査でホンモロコなどの琵琶湖固有種7種を含む31種の魚類を採集した。

(2) 湖東地域を中心とした水辺の生物相調査

地域の水辺に棲む生物の記録を残すことは、日々変化していく水辺環境を評価する際に重要な資料となりうる。そのため、我々は神上沼以外にも、滋賀県内のいくつかの水域において水生生物の調査を行っている。例えば、2017年には、滋賀県立大学の北側を流れる野瀬川において、どのような魚類が生息しているのかを調査した。その結果、アユやウツセミカジカなど計18種の魚類を採集した。野瀬川の河口部では2018年に大規模な護岸工事が行われたため、今回の調査記録は、工事に伴って今後変化する魚類相を評価するとき重要な記録になると考えられる。

(3) 水辺を楽しむ啓発活動

地域の水辺環境を保全するためには、水辺の環境を多くの人に知ってもらうことが必要である。特に、将来の水辺を担う子供世代にアプローチすることが重要であるため、我々は大学周辺地域で水辺に親しむことを目的としたイベントの開催にも力を入れている。これまでに、外来魚釣り、水路や河川での魚とり、地域のイベントへの出展や小学校での出前授業を実施した。身近な環境とそこに棲む生物について興味、関心を持ってもらうことで、身近な水辺環境を守ろうという人々の輪を広げていくことを目指している。

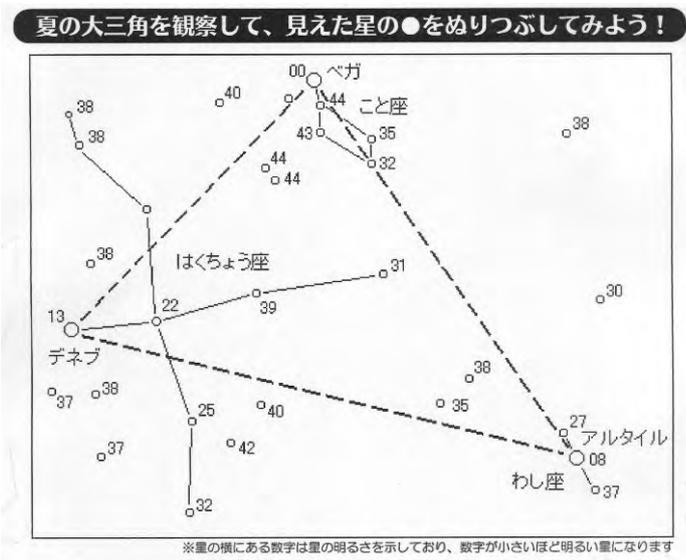
多賀町星空調査 2018

湖東理科研究会 高橋進

多賀町では2011年に開催された「星空の街・あおぞらの街」全国大会(環境省主催で高円宮妃殿下の御臨席で行われた星空環境をテーマとした大会)に合わせて2010年より星空調査が行われてきました。これまでに、2010年・2011年、2014年、2016年の4回の調査が行われ、今回(2018年の夏休み期間中)行われた調査は5回目になります。

今回の調査は湖東理科研究会の主催で、多賀町内にある多賀小学校と大滝小学校の4～6年生と多賀中学校の1～3年生の388人の生徒に夏休みの宿題という形で呼びかけを行い、361人の皆さんから観測報告をいただくことで行われました。調査方法は夏の大三角の中の星を観察対象として何等星まで見ることができると肉目で観察してもらいました。この観察用星図が左の図で、それぞれの星についている数字は等級を10倍した数字です(例えば38と書いてある星は3.8等星です)。生徒の皆さんに夏休み中に3回以上の観測をお願いしたところ1076件の観測報告をいただくことができました。これにより2018年の多賀町星空マップを作ることができました。

今回の研究発表会では、今回得られたマップをご紹介するとともに、これまでの星空調査による星空マップとの比較などもお話させていただきます。



今日、星空を調査して分かったこと、感じたこと、疑問に思ったことを文章や絵で書いてみよう

急遽の夏の三大角!!! 6月17日の19時20分 今日、火星がみられました! 13°の星と間違えて明くて、赤い色をして。思ってたより13°の星と間違えて明くて、赤い色をして。火星は7.27°の下位置と下から7.27°の位置と... 火星は7.27°の下位置と下から7.27°の位置と... 火星は7.27°の下位置と下から7.27°の位置と...

星空調査2018での、観察しての感想より

姉川流域の縄文時代の古環境復元

滋賀県立米原高等学校地学部

龍見幸祐 北川凜翔 他 9 名

目的

米原市大久保（姉川）と吉槻（足俣川）に見られる小泉層の珪藻化石と花粉化石の分析から、「5000 年前の伊吹山崩落によりできた堰止湖（「小泉湖」と呼ぶ）がどのような湖であったか」、「湖が存在した期間の湖周辺がどんな環境だったか」を調べる。

研究方法

(1) 珪藻化石の処理・同定方法

過酸化水素処理と塩酸処理をする。処理後、プレパラートを作成。琵琶湖博物館、長浜バイオ大学から油浸の顕微鏡で、珪藻の写真を撮影する。撮影した写真を、GIMP 2 を用いて分類し同定する。

(2) 花粉化石の処理・同定方法

アルカリ処理・篩がけ・アセトリシス処理を行う。花粉の同定は今年度までに地学部で作成した花粉同定表を用いて 3 人以上で同定する。

結果

(1) 米原市大久保と吉槻の花粉化石の分析結果

大久保の花粉化石は、地点 1~3 の 14 層から多産した。ブナ属、ケヤキ属、コナラ属など落葉広葉樹が多く、スギ属はほとんど見られなかった（図 1）。足俣花粉化石は、大久保の花粉化石と同様にブナ属、コナラ属を中心とするものだった。

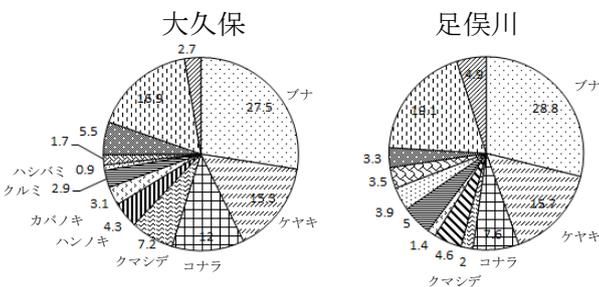


図 1. 大久保と吉槻の花粉化石の分析結果

(2) 米原市大久保と足俣川の珪藻化石の分析結果

大久保の 19 層と足俣川の 3 層の珪藻化石の同定をした。大久保では浮遊性の珪藻が多く、足俣川では植物付着性珪藻と底生の珪藻が多かった。

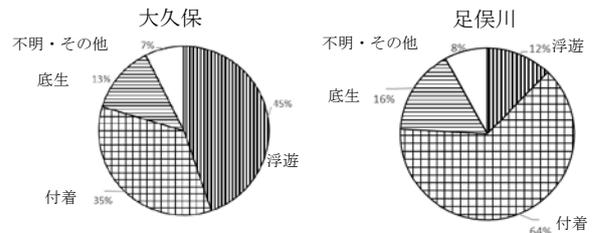


図 2. 大久保と吉槻の珪藻化石の分析結果

まとめ・結論

- ①本調査で調べた小泉層の結果はブナ属が多くスギ属が少ないことなどから 5000 年前の伊吹山崩壊時のものではなく、12000 年~10000 年前の縄文時代のものであると考えられる。
- ②小泉湖は、足俣川付近まで広がる大きく深い湖ではなく、小泉から下板並までの小さく浅い湖だった。小泉湖の存在していた頃の足俣川付近には湖ではなく、湿原が存在していた。
- ③小泉湖の水質は、板名古川からの流入や伊吹山からの伏流水の影響により、富栄養で、中~アルカリ性、高電解質であった。下部層の時は板名古川の水などが多く流入し、上部層の頃は姉川本流からの貧栄養で低電解質の水が混入し始めた。（表 1）
- ④湖周辺の森は、ブナ属を中心とし、ケヤキ属やコナラ属、クマシデ属などの落葉広葉樹林が広がっており、12000~10000 年前の期間での大きな変化は無かった（表 1）。

表 1. 珪藻化石から分かる旧小泉湖とその周辺の植生

深さ	層名	珪藻化石の割合 (%) (注以上) ●浮遊性 ▲付着性 ■その他	水深	水質	流入源	周辺の植生
72 cm	上部層 E	● <i>Aulacoseira pusilla</i> ▲ <i>Aulacoseira alpigena</i> ▲ <i>Odontidium mesodon</i> ▲ <i>Cocconeis lineata</i> ■ <i>Planorbulina lanceolatum</i>	浅い	富栄養 中~アルカリ性 高電解質	石灰岩の多い板名古川 + 伊吹山の伏流水 + 花崗岩の多い姉川本流	落葉広葉樹林
	上部層 D	● <i>Aulacoseira pusilla</i> ● <i>Stephanodiscus parvus / minutulus</i> ● <i>Diocostella stelligera</i> ▲ <i>Odontidium mesodon</i>	深い (十数m以下)			
201 cm	下部層 C	● <i>Diocostella stelligera</i> ● <i>Aulacoseira pusilla</i> ● <i>Stephanodiscus parvus / minutulus</i>	浅い	石灰岩の多い板名古川 + 伊吹山の伏流水	ブナ コナラ ケヤキ ハンノキ クマシデ 他	
483 cm	下部層 B	● <i>Diocostella stelligera</i> ▲ <i>Epithemia adnata</i> ■ <i>Planorbulina lanceolatum</i> ■ <i>Nitzschia sinuata</i> var. <i>tabularia</i> ▲ <i>Rhopodia novae-zelandiae</i> ▲ <i>Rhopodia gibba</i>				
443 cm	下部層 A	● <i>Aulacoseira pusilla</i> ● <i>Stephanodiscus parvus / minutulus</i> ■ <i>Planorbulina lanceolatum</i>	深い (十数m以下)			

今後の課題

532 cm

伊吹町史に記載のある大久保の橋からキャンプ場までにかつて見られた地層を探し、地点 1~3 の地層とのつながりを調べる。

多賀道と御代参街道

平成31年2月16日
多賀町立博物館研究発表会

愛荘町立歴史文化博物館 門脇正人

1. 中山道からの多賀道

高宮道（多賀本道）	高宮、大尼子、多賀
大堀道	大堀、土田、多賀
原道	原、正法寺、野田山、中川原、月ノ木、多賀

2. 湖東地域からの多賀道

- I 八千代橋付近、小田苧、清水、苧間、平居、栗田、島川、北八木、安孫子
東出、円城寺、雨降野、長寺、横関、北落、敏満寺、大尼子、多賀
- II 御河辺橋、小神田、岸本、池庄、横溝、大沢、平松、今在家、小八木、
香之庄、蚊野外、軽野、蚊野、竹原、常安寺、池寺、金屋、北落 …
- III 春日橋、妹、下中野、上中野、下山、読合堂、北坂、平柳、祇園、
上蚊野、松尾寺、斧磨、池寺、金屋、北落 …

3. 岐阜県、三重県からの道

五僧越（島津越）	八重練、杉、保月、五僧	上石津町時山（大垣市）
鞍掛越（大君ヶ畑越）	佐目、大君ヶ畑、鞍掛トシ	藤原町山口（いなべ市）

4. 御代参街道

伊勢・多賀への道

東海道と中山道のバイパス

寛永17年（1640） 春日局が上洛の途中
伊勢から多賀へ参詣

延宝6年（1678） 遊行上人（神奈川県
藤沢）の通行

土山宿 鎌掛 石原・岡本 八日市 愛知川宿

朝廷が伊勢神宮と多賀大社へ名代（代参）を派遣

日野、八日市、五個荘を結ぶ「市道」

道標には 伊勢 多賀 北国の表記が多い

中山道から八日市への3本の道

小幡から 小幡、奥、建部下野、建部日吉（新・旧ルート）

新堂から 新堂、平阪、伊野部、建部日吉

愛知川から 愛知川、東円堂、南清水、小田苧、建部北、南、日吉



平成8年度に多賀町榑崎の団体営ほ場整備事業に伴う発掘調査で、堀を伴う施設跡が発見された。近世の地誌類に六角氏の重臣である榑崎氏が居を構えたとされることから、榑崎氏の館跡ではないかと推測した。しかし、榑崎氏の実像は明らかではなく、一次資料から実像について検討を行った。

佐々木氏系図（「続群書類従正応本」）によると愛智家行の五男である憲家が山崎と称し、憲家の子の盛家が榑崎と称したされる。榑崎氏の初出史料は貞和3年（1347）の「近江守護遵行状案」（『菅浦文書』）で、榑崎兵衛が六角氏頼より違勅狼藉した菅浦土民を召進するように命令を受けている。六角氏は宇多源氏佐々木氏の惣領家にあたり、近江守護として近江の支配を行っていた。

文和2年（1353）にも榑崎四郎兵衛尉が山内定詮（六角千手の後見人）より菅浦に乱入狼藉した伊香郡使を召し上げるように命令を受け（『菅浦文書』）、永和元年（1375）には榑崎次郎左衛門入道が伊香大社の訴に関係し（『大音文書』）、応永16年（1409）頃には同人が六角満高より浅井郡伊部郷に半済地を宛がわれている（『永田文書』）。応永24年（1417）、同26年（1419）には榑崎太郎左衛門入道が、満高の子満綱より余呉庄丹生・菅並村の押領を止めさせるように命令を受ける（『西山地蔵院文書』）など、湖北方面での活動が見られる。このことから榑崎氏が本拠地に近い浅井郡の郡奉行であったと見られている（下坂守「近江守護六角氏の研究」）。

守護に対しても、ものがはっきり言える立場であった（『東寺百合文書』）榑崎氏は、満綱の息子持綱が守護になった後も側にいたと思われ（『八坂神社文書』）、持綱とその弟時綱との家督争いとなり、満綱親子が敗れて自殺するが、その後榑崎氏が湖北での活動はおろか、六角氏関係の文書にもしばらく登場しないのは、満綱親子と命運を共にしたためではないかと考えられる。

京極正経が近江を制圧し、京極方の小倉氏は犬上郡にまで勢力を広げ、長禄寛正頃（1457 - 1465）小倉氏への合力を呼び掛けた愛智・犬上郡の国人・土豪34名の中に榑崎氏の名前もあり（『栗田幸平氏文書』）、この頃榑崎に居住していた可能性が高い。

応仁2年（1468）には六角高頼方として守山城を守って榑崎某が自殺しており（『碧山日録』）、延徳4年（1492）には六角高頼方が幕府軍と戦った際には、榑崎某が討ち捕らえられている（『蓮成院記録』）など、やはり六角方で戦っている様子が見える。天文7年（1538）頃に六角高頼が浅井亮政を攻めた際には、榑崎氏は坂田郡平方に陣を構えている（『朽木文書』）。足利義輝の元服式では、家老（年寄）の一人として榑崎太郎左衛門が警護にあたっている。

榑崎太郎左衛門尉賢道は、永禄10年（1567）の「六角氏式目」に署判を行っている。織田信長の佐治為次への書状（『佐治家乗』）や佐久間信盛への書状（『吉田文書』）には榑崎氏の領地を与えることが記されており、このことから信長の近江侵攻後も六角氏に従っていたと見られる。

以上のように一次史料からみた榑崎氏は、南北朝期から戦国期まで六角氏重臣として六角氏を支え、軍事に活躍し、六角氏衰退後も六角氏に従い歴史の表舞台から姿を消したと考えられる。

詳しくは拙稿を参照されたい。

本田 洋「犬上郡多賀町榑崎の中世遺構について（1）～榑崎氏館跡の再検討～」『淡海文化財論叢』10、淡海文化財論叢刊行会、2018年、107～112頁。